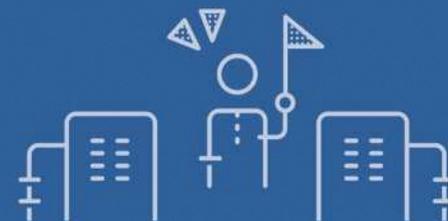


意見収集(児童・生徒ワークショップ/アンケート)  
からみた  
新しい中学校に求められる視点



令和8年3月  
有田町 学校教育課

## 1. ワークショップの開催概要(おさらい)

未来の利用者である子どもたちの「ゆめ」を直接聴取



### 実施日時・場所

令和7年11月1日(土)  
有田町生涯学習センター



### 参加者

合計22名  
(町内小学生14名、中学生8名)



### テーマと手法

**「未来の中学生への贈り物として、どんな新しい学校にしたいか」**

付箋を用いた自由記述とグループワークによる意見の共有・発表。

## 2. 主な意見（キーワード分類）（おさらい）

### 具体的な生活実感のこもった多様な「ゆめ」



#### 生活・衛生

きれいなトイレ（センサー、暖房、音姫）、自動蛇口、自動ドア、大きなロッカー、広い靴箱など、快適性への切実な要望。



#### 学習環境

広い教室、集中できる配色、ICTの充実（タブレット・時間割電子化）、プリント廃止、エアコン完備の体育館。



#### 遊び・交流

休憩室（居場所）、中庭、屋上、購買部、大きな図書館  
ボールプール、飼育小屋  
スクールバス、エレベーター。

特徴：単なる「学び場」だけでなく、生活の質（QOL）を向上させるための具体的な高機能な設備への要望が顕著。

### 3. 子どもたちの「ゆめ」から読み解く視点（1）

#### 視点1：「きれい」で「快適」な学校

毎日を気持ちよく過ごせる、生活空間としての質の確保

##### 現状課題の改善

「きれいなトイレ」「エアコン完備」など、現在の環境の課題を直接的に改善したいという切実な願い。

##### 心身の健康基盤

学習効率の向上だけでなく、心身の健康を支える基盤として、生活空間・学習空間における「質」の確保を最重要視。

##### 高機能な設備

センサー付きトイレ、自動ドア、大きなロッカーなど、単なる新しさだけでなく「快適」で「機能的」な学び舎を志向。

### 3. 子どもたちの「ゆめ」から読み解く視点（2）

#### 視点2：自分らしくいられる学校

「ひとりの時間」も「みんなの時間」も大切にできる多様な居場所

##### 場所を「選べる」自由

画一的な教室だけでなく、休憩室、中庭、図書館など、生徒が主体的に過ごす場所を選べる環境。

##### リラックスと交流

友人と語り合う交流の場、一人で静かに集中する場など、心の安定と社会性の発達を促す空間の点在。

##### 自然との触れ合い

中庭、屋上、飼育小屋など、建設地である「歴史と文化の森」の豊かな自然環境を活かした癒やしの空間。

### 3. 子どもたちの「ゆめ」から読み解く視点 (3)

#### 視点3：「もっと便利に」「もっと楽しく」

デジタルネイティブ世代が求める、合理的で効率的な学習スタイル

##### ICTの日常化

タブレット、プリント廃止、時間割の電子化など、デジタル機器を前提とした合理的でスマートな学校生活への期待。

##### 効率化への視点

プリント廃止や掃除ロボなど、無駄を省き、学習や活動に集中できる環境づくりへの先進的な視点。

##### 未来の学びの土台

個別最適な学びやSTEAM教育を推進する上で不可欠な、施設・設備・運営面からの強力なサポート体制。

## 4. 総括：ワークショップから見た 子供たちが描く未来の学校

単なる施設ではなく、

「生徒一人ひとりのための温かい学びの舎」へ

- ✓ 質の高い生活空間：「きれい・快適」は学習効率と心身の健康の必須条件。
- ✓ 多様な居場所：個と集団、静と動を選べる空間が、心の安定を支える。
- ✓ 未来を創る機能：ICT活用や自然との共生は、次世代型人材育成の核となる。

子どもたちの「ゆめ」を、設計上の具体的な「仕様」へと落とし込むことが、今後の検討における課題

## 5. アンケート調査の概要と考察(おさらい)

### 子育て世代の「生の声」をバランス良く抽出



#### 有効回答数

407件の回答をオンラインプラットフォーム「Liqid」を通じて収集。検討の強固な基礎資料を確立。



#### 回答者層

30代・40代が全体の73.7%を占め、94.6%が子供を持つ保護者。未来の利用者の声を直接反映。



#### 居住地区

有田地区 49.9%、西有田地区 48.6%とほぼ均等。地区間の偏りが無い公正な意見を抽出。

#### + 統合への期待

学習環境の抜本改善: 老朽化対策と設備刷新への強い要望。

多様な人間関係: 学級数適正化による切磋琢磨の場。

部活動の選択肢: 学校規模拡大による活動の多様化。



#### 統合への不安

通学距離・時間の増加: 心配事の27.0%を占める最大課題。

安全面の問題: 交通安全や防犯に対する保護者の懸念。

スクールバス運行: 利便性と持続可能性の確保。

## 6.主な自由回答の分析(1)

### 【視点1】安全・安心に関する具体的な要望

#### 立地障壁

坂道や冬場の天候条件に対する不安が具体化。荷物の多い部活動生への配慮を求める声。

#### 物理的安全

「死角の少ない建物設計」によるいじめの抑制や、徹底した不審者対策の導入を要望。

#### 不登校対策

一人ひとりに気を配り、不登校生徒を産まないきめ細かな運営面での配慮。

### 【視点2・3】教育環境と家計負担への切実な声

#### インフラ完備

全教室エアコン、体育館冷暖房、エレベーター等、現代の標準インフラの完全整備。

#### 家計負担軽減

統合に伴う「制服・備品の新調コスト」を抑制してほしいという切実な声が多い。

#### 給食の質

自校調理による「温かい給食」の継続提供を求める食育面での要望。

## 6.主な自由回答の分析(2)

### 【視点3】地域合意とプロセスの透明性

#### 🌲 公園の保存

建設候補地の「憩いの機能」が失われることへの懸念。地域住民と共生する活用の模索。

#### 🕒 伝統の継承

校歌・校章の継承や、旧校舎の思い出を一部残すといった卒業生への心理的配慮。

#### 🗨️ 丁寧な説明

「統合ありき」ではない住民への説明。不信感を取り除く透明なプロセスの継続。

### 自由回答からうかがわれる、統合に対する「期待」と「不安」

- 最大の懸念(通学)の具体化:  
懸念は「距離」だけでなく、建設候補地の「坂道」や「送迎時の混雑」、「部活動の送迎負担」に集中している。
- 最大の期待(施設)の具体化:  
期待は「新しさ」だけでなく、「エアコン・エレベーター等の快適性」や「死角のない安全設計」に集中している。
- 計画プロセスへの意見:  
「統合ありき」の説明への不信感や、家計負担(制服費)、建設候補地(炎博公園)の公園機能保存など、統合に伴う「痛み」や「配慮」を求める声が多数存在している。

これらは先の「3つの視点」と合致しており、特に「視点1(安全・安心)」と「視点3(持続可能な計画=費用・プロセス・地域合意)」

において、十分配慮した計画が求められていることを示している。

## 7.総括：アンケート調査からみた新しい中学校に求められる視点

### 視点1

#### 「安全・安心」の確保

通学・立地・居場所が一体となった安全性の追求。

■ **通学課題の克服:** 安全な通学路の確保と、部活動にも対応した柔軟なスクールバス運行体制の確立が不可欠。

■ **災害に強い拠点:** 高台という立地の利点を活かし、洪水・土砂災害リスクを最小化した絶対的な安全性の担保。

■ **インクルーシブな居場所:** 不登校や特別支援の生徒も含め、全生徒が安心して過ごせる「心理的な安全基地」の整備。

### 視点2

#### 質の高い教育環境

新しい時代の学びを支える、最新設備とプログラム。

■ **基盤としてのICT・最新設備:** 全館空調やエレベーターの完備に加え、日本を代表するような先進的な教育環境の構築。

■ **個別最適・協働的な学び:** 多様な学習形態に対応するラーニングコモンズや、教科横断的なプロジェクトを支えるゾーニング。

■ **教育内容のアップデート:** 単なる箱の統合ではなく、STEAM教育や英語教育の充実を通じた「教育の質」そのものの刷新。

### 視点3

#### 持続可能な計画

早期実現と財政・将来性のバランスが必要。

■ **老朽化対策の早期着手:** 施設の老朽化を鑑みた「早期建設(10年以内)」を望む約半数の切実な声への誠実な対応。

■ **将来負担の平準化:** 町の財政状況や将来の生徒数減少を冷静に見極め、将来世代に負担を残さない持続可能な設計。

■ **ソフト面への配慮:** 制服や備品の買い替えコスト抑制、既存校の思い出継承など、住民の「痛み」に寄り添った合意形成。